



平成 21 年 1 月 16 日

各 位

上場会社名 イーサポートリンク株式会社  
(コード番号：2493 大証ヘラクレス)  
本社所在地 東京都豊島区高田二丁目 17 番 22 号  
代 表 者 代表取締役社長 堀 内 信 介  
問 合 せ 先 取締役管理本部長 仲 村 淳  
電 話 番 号 (03)5979-0784  
U R L <http://www.e-supportlink.com/>

特別損失の計上および平成20年11月期通期業績予想（連結・個別）の修正に関するお知らせ

当社は、平成20年11月期（平成19年12月1日～平成20年11月30日）におきまして、下記のとおり特別損失を計上いたしますのでその概要をお知らせするとともに、当該特別損失による影響や最近の業績の動向等を踏まえ、平成20年10月15日に公表いたしました平成20年11月期通期業績予想（連結・個別）を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 特別損失の発生及びその内容

(1) 連結

①のれん減損損失 74百万円

連結子会社における現在の事業環境から将来の損益状況及び今後の見通し等を勘案した結果、短期的な純資産価値の回復が困難との判断に至り、のれんを償却することといたしました。

②その他特別損失 258百万円

投資有価証券評価損 144百万円、固定資産減損損失 83百万円、固定資産除却損 30百万円等を計上することといたしました。

(2) 個別

①関係会社株式評価損 230百万円

連結子会社における現状の損益状況及び純資産の状況などを勘案し、株式評価損を計上することといたしました。

②その他特別損失 592百万円

貸倒引当金繰入 400百万円、投資有価証券評価損 144百万円、固定資産減損損失 17百万円、固定資産除却損 30百万円等を計上することといたしました。

2. 平成20年11月期連結業績予想数値の修正（平成19年12月1日～平成20年11月30日）

(1) 連結

(単位：百万円，%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
					円 銭
前回発表予想(A)	4,391	△241	△253	△261	△9,000 85
今回修正予想(B)	4,414	△209	△223	△645	△22,176 52
増減額(B-A)	23	31	29	△383	—
増減率(%)	0.5	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績(平成19年11月期)	5,106	351	310	125	4,324 68

(2) 個別

(単位：百万円，%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
					円 銭
前回発表予想(A)	4,349	△11	△18	△58	△2,012 35
今回修正予想(B)	4,368	24	18	△925	△31,794 04
増減額(B-A)	19	36	37	△866	—
増減率(%)	0.5	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績(平成19年11月期)	5,065	429	394	210	7,246 79

3. 修正の理由

(連結)

当連結会計年度におきましては、生鮮青果流通業界における主要卸売市場の卸売数量及びバナナ等の輸入量が前年を上回ったものの、量販店の農産品販売額が前年実績を割り込む状況で推移いたしました。このような状況の中、当社が提供する生鮮流通システム及び業務受託サービスについて、当社主要顧客が商品・販売先を見直したことなどにより、当社のシステム上に発生するデータ件数及び取扱受注作業量が減少いたしました。これらの売上減少を受け、システムの機能強化、業務受託サービスの柔軟な人材活用による生産性の向上などに取り組み、売上原価や販売費及び一般管理費の削減を進めてまいりました。また、新規案件として当社が進めてきた量販店及び量販店取引先に対して提供する生鮮MDシステムにつきましては、当初計画における取扱品目の農産品、水産品、畜産品の生鮮3品に加え、花卉や加工品（豆腐など）の新規取扱品目への対応及び取引先への操作説明の準備に時間を要したため、当連結会計年度における販売には至りませんでした。

連結子会社農業支援におけるりんご事業では、集荷・選果・販売までの体制確立や販路の拡大を進めてまいりましたが、売上の計画対比未達もあり、営業利益を計上するまでには至りませんでした。また新規に進めてきた国産農産物のマーケティング事業の展開に時間を要したことにより、当初計画の売上を獲得するまでには至りませんでした。

上記内容につきましては、平成20年10月15日に発表した通期業績予想値に織り込み済みのため、売上高、営業利益、経常利益につきましては、概ね前回予想どおりの結果となりました。

一方で、当期純利益につきましては、

- ・連結子会社における現在の事業環境から将来の損益状況及び今後の見通し等を慎重かつ保守的に検討した結果、短期的な純資産価値の回復が困難との判断に至り、のれん減損損失 74 百万円を計上したこと。
- ・当社が保有する投資有価証券のうち、実質価額が著しく下落し、その回復があると認められないものについて、投資有価証券評価損 144 百万円を計上したこと。
- ・当社及び連結子会社の固定資産において、将来の回収可能性を保守的に検討し、固定資産減損損失 83 百万円を計上したこと。
- ・当社が計上していました繰延税金資産の回収可能性につき慎重に検討した結果、保守的な観点から、その一部 108 百万円を取り崩すこととしたこと。

などにより、前回予想を下回る見通しとなりました。

#### (個別)

当社業績内容につきましては、概ね連結と同様の理由であり、これにより、売上高、営業利益、経常利益につきましては、概ね前回予想どおりの結果となりました。

一方で、当期純利益につきましては、

- ・連結子会社の業績改善の遅れにより同社への貸付金の返済計画を慎重かつ保守的に検討し、貸倒引当金 400 百万円を計上したこと。
- ・連結子会社における現状の損益状況及び純資産の状況などを慎重かつ保守的に検討し、株式評価損 230 百万円を計上したこと。
- ・当社が保有する投資有価証券のうち、実質価額が著しく下落し、その回復があると認められないものについて、投資有価証券評価損 144 百万円を計上したこと。
- ・当社の固定資産において、将来の回収可能性を検討し、固定資産減損損失 17 百万円を計上したこと。
- ・当社が計上していました繰延税金資産の回収可能性につき慎重に検討した結果、保守的な観点から、その一部 108 百万円を取り崩すこととしたこと。

などにより、前回予想を下回る見通しとなりました。

(注) 上記の本業績予想につきましては、発表日現在で入手可能な情報に基づき作成しております。

従いまして、実際の業績は様々な要因により本業績予想とは異なる結果となる可能性があります。

以 上